

学生部の窓口時間のお知らせ

多摩キャンパス

期 間	窓 口 時 間	
学 生 課		
～12月22日(土)	月～金 土	10:00～19:00 10:00～12:00
1月7日(月)～1月11日(金)	月～金 土	10:00～19:00 10:00～12:00
1月12日(土)～3月31日(月)	月～金 土	10:00～17:00 10:00～12:00
厚 生 課		
～12月22日(土)	月～金 土	9:00～19:00 9:00～12:00
1月7日(月)～1月11日(金)	月～金 土	9:00～19:00 9:00～12:00
1月12日(土)～3月31日(月)	月～金 土	9:00～17:00 9:00～12:00
学 生 相 談 室		
～12月22日(土)	月～金 土	10:00～18:00 (月曜日17:00迄) 10:00～12:00
1月7日(月)～2月5日(火)☆	月～金 土	10:00～18:00 (月曜日17:00迄) 10:00～12:00
2月6日(水)～3月31日(月)	月～金 土	10:00～17:00 10:00～12:00

後楽園キャンパス

理工学部学生生活課		
～12月22日(土)	月～金 土	10:00～18:00 10:00～12:00
1月7日(月)～1月11日(金)	月～金 土	10:00～18:00 10:00～12:00
1月12日(土)～4月8日(火)	月～金 土	10:00～12:00 13:00～17:00 10:00～12:00
理工学部学生相談室		
～12月22日(土)	月～金 土	10:00～17:00 (水曜日17:30迄) 10:00～12:00
1月7日(月)～4月8日(火)	月～金 土	10:00～17:00 (水曜日17:30迄) 10:00～12:00

※冬季休業期間（12月25日(火)～1月5日(土)）の窓口業務は行いません。

※窓口時間を変更する場合には、事前に各課窓口に掲示します。

☆1月15日(月)は臨時休業のため、17:00閉室となります。

災害救援ボランティア講座 参加者の声

中央大学学生部

学生部では、前期試験が終了した直後の2007年8月3日(金)、4日(土)、5日(日)の3日間『災害救援ボランティア講座』を実施し、52名の学生が参加しました。この講座は「災害時、わが身と家族の命を守る」ため、実践的な防災の基礎知識と応急手当を学び、ひいてはボランティア活動の活性化に繋げることを目的とし、3日間、災害模擬体験と実技(消火訓練・地震体験・煙体験)、応急手当活動(東京消防庁による上級救命講習)、災害・防災について(講義等)の講座に熱心に取り組み、修了者には、災害救援ボランティア推進委員会より「セーフティリーダー認定証」が、東京消防庁より「上級救命技能認定証」が、それぞれ交付されました。講座を修了した参加者の声をご紹介します。

毎日長時間で大変ではあったが、3日間という短い間に防災や救命技能について集中的に学ぶことができ、とても充実していました。普段はどうしても災害に関して意識が薄いので、この講座をきっかけにまた防災意識が高まりました。今まで、なんとなくしか知らなかった救命技能も実技を通して学べたのがすごくよかったです。今までもし人が倒れていたら自分には何ができるのだろう、家族が大変なことになったら自分が助けてあげることができるのだろうかとすごく不安でしたが、今回の講座で学んだことで、自分にもできることはたくさんあるのだと思いました。自信を持って緊急時に落ち着いて行動できるよう心がけて行きたいです。前々から学びたいと思っていたことが学べ、とても有意義な3日間でした。

(商1年・男子)

この講座に参加して、とてもためになる多くのことを学びました。一人で参加して少し不安を感じていたものの、皆さんとても良い人ばかりで不安もなくなり、楽しかったです。今回学んだことは忘れずにいたいし、友達などにも今回得た知識を教えられたら良いです。

(文2年・女子)

私は今回の講習をいざ災害が起きた時だけでなく、身近にいる人が具合が悪くなったりケガをしたりしたときに役立てたいと思いました。また、機会があったら救援ボランティ



アに行ってみたいと思っています。ハードな3日間でしたが、とても貴重な経験ができました。

(法2年・女子)

これから、いつでもどこでどのように起こるかわからない地震や様々な災害に遭遇したときに自分はどういった行動をとるべきか、最低限の知識や対処法を学ぶことができ、自分にとって大変役に立ったと実感しています。何より、以前よりも災害に関して自分から知ろうとする意識になれたことが良かったです。

(総合政策2年・男子)

ⓐ 今後必ず首都圏を襲う災害はあるだろうから、そのことについて考えさせられた。また、応急手当の方法を学べたのでそのことを実践できるようになりたい。災害に関しては、自分が被災したときにどのように動くべきなのか常日頃から考えておくべきだと感じた。

(文2年・男子)



ⓐ 地震やそれに伴う二次災害に対処するためには、早い処置、的確な処置が必要不可欠なのだということを2日目の上級救命技能講習を受けて感じました。そして受け身でいるのではなく、災害時には積極的に自分から動いていかなければならないことを考えさせられました。1日目で震度7を体験しましたが、あの状況で火を消したり逃げ口を確保したりと的確に行動するには、あらかじめ地震に対する知識や訓練がされていなければならぬため、この講習をきっかけに我が家の防災について家族に話してみたいと思いました。また、阪神・淡路大震災を経験した祖母にもっと詳しく話を聞いてみようと思います。

(法2年・女子)

ⓐ 私は今、ボランティア団体に加入しています。そこでは、小学生を対象と一緒に遠足に行ったりキャンプをしたりしています。その中で、危険な状況にならないとは限りません。そのような緊急事態の時に、自分も少しでも役に立ちたいと思いこの講座に参加しました。今回得た知識、技能をボランティアだけでなく普段の生活の中で生かしていきたいと思っています。

(経済3年・女子)

ⓐ 長時間の実技体験により、応急手当のやり方を理解することが出来ました。消化器を使ったのは初めてだったし、震度7の地震がどのくらいすごいのか、煙の中をどのように逃げればいいのかということを知ることが出来て、本当によかったと思います。日頃から、災害に備えることがどれだけ大切かを改めて実感しました。この講座で身につけた知識・技能は、

忘れてしまわないように定期的に復習しなければならぬと思いました。

(文2年・男子)

ⓐ とても内容の濃い3日間でした。これまで高校やテレビなどで心肺蘇生、応急手当について学んだり目にしたりしていましたが、どこかわからなくてそれでも特に問題もないしいいだろうという感じでした。でも、今回の2日目の講習で丸一日みっちり教えて頂き、自分でやってみてまだまだ不正確で練習していかなければならないけれど、とても良いことを学ぶことができました。実際に同じ場面に出会ったときに今回学んだことを迷いなく実行できるような人でいたいと思いました。そして、3日間を通して地震や火災の怖さ、残酷さ、そして人と人のつながりの大切さを改めて感じるとともに、こんな時自分は生きられるのか、何かできるのかということも真剣に考えるきっかけになりました。今回の講座を受けることができて本当に良かったです。

(法2年・女子)

ⓐ 最近、新潟中越沖地震が起きたということもあり、地震への対応に興味があり今回の講座を申し込みました。これからは、災害予防活動といった自分にできる活動を始め、いつかボランティアに参加したいと思います。

(法3年・男子)

ⓐ 私は高校2年の時に普通救命講習を受けていたので、大学に入ったらもう少し踏

み込んで学んでみたいと思いいこの講習を受けました。スタッフの方は皆親切な方ばかりで楽しんで講習を受けることができました。防災とは、まず自分を守ること。そして、自分の周りの人も守っていければ良いと思いました。

(法2年・女子)

今回の講座は非常に為になった。災害の恐ろしさを知ることができた。また、それらを実際に体験することもできた。さらに、心肺蘇生の方法など知らない知識を身をもって得ることができた。これから都市部で直下型の地震が起こることが予想されているし、他にも様々な災害が起こるだろう。そうしたときに、この講座で学んだことを生かして自助・共助をしていきたいと思う。

(法3年・女子)

身近に災害や事故があっても、自分には出来ることがあまりないという不安から参加しました。実際に体を動かして体験することで、参加以前よりずっと災害への心構えを養うことができました。そして、精神的ダメージ

や生活上の不便など災害により起こる様々な被害を学び、自分の出来ることの可能性を知りました。また、心配蘇生や消化器を使うとき、傷病者の方を励ます際など冷静に判断して行動するためには、多くの勇気と日頃の訓練が必要だと感じました。少しでも出来ることが増やせるよう、今後も知識・技能を高めていきたいと思えます。周りの方にも、このような講習の存在や災害へどう備えたらよいか伝えていきたいです。

(法4年・女子)

この講座で改めて災害に対して意識できました。特に立川防災館で体験した震度7は自分の想像をはるかに超えていて、防災についての意識が高まりました。また、救命講座ではAEDのことが学べてとてもよかったです。もしもの時にまわりの大切な人を助けられるよう、この3日間で学んだことを意識して生活したいと思います。まず、三角巾を買いに行こうと思います。

(法2年・男子)

上級救命講習会を後楽園キャンパスにて 9月19日に実施しました

中央大学学生部

上級救命講習会に参加して

理工学部1年 加藤 泰祐

私が、この講習会に参加した理由は、所属している白門祭実行委員会で強制的に受けさせられたからです。申し込むときは面倒だと思っていたけれど、夏休みにこのような講習会が必要だと思わせることがありました。

私は白門祭実行委員会の他に、サイクリング同好会にも参加していて、夏休みに合宿に行きました。その合宿で、一人けがをしました。私はその場にいなかったため、様子はよくわからなかったけれど、サイクリングは常に危険と隣り合わせなんだと思知らされ、それと同時に、この講習が良い機会になると思いました。

講習会の内容は自分の知りたいことと少し違っていました。私は、けがの応急処置の方法を知りたかったけれど、講習の大半は心肺蘇生法でした。でも、心肺蘇生法や実際の救命の流れ等、この講習会のような場で体験しておかないと、何かあったときに絶対に対応できないと思いました。講習会は約7時間ほどあり、非常にたくさんのことを学びました。とてもつらい講習でしたが、それだけ命を救うということも大変だと思います。

今回体験しただけで、実際の現場で平常心で処置を行えるとは思えないけれど、何も知らない人よりは確実に動けるだろうし、少なくとも邪魔になることはないでしょう。このような講習は、一度でも受けていると、確かな違いが出

と思います。大変だったけれど、非常に有意義で貴重な体験ができました。より多くの人に、このような講習会に参加していただきたいと思っています。

中央大学杯スポーツ大会（学生部主催）

中央大学学生部

10月6日、7日の2日間にわたり、学生部主催の中央大学杯スポーツ大会が実施されました。ソフトボール、バスケットボール、バレーボール、ミニサッカーの4種目が行われ、全種目を合わせ300近くのチームが参加し、普段の練習の成果を発揮していました。秋晴れの空の下、選手たちは清々しい汗を流していました。以下は、バスケットボール、ソフトボールの各優勝チームからの報告です。

2007年度 スポーツ大会 受付状況(参考)

種 目	参加チーム枠	申込チーム数
ソフトボール	56	86
バレーボール	64	113
バスケットボール	64	94
ミニサッカー	95	121

バスケットボールの部 優勝チーム SAKURA 【信 頼】

法学部3年 稲田 陽介

僕達は一昨年優勝し、昨年ベスト4で敗れた。その悔しさをバネに毎日、毎日のロードワークを欠かさず、また、夏の合宿では吐くほど練習をした。もう止めたいと思った。その場から逃げ出したかった。しかし、みんながいたから頑張れた。思えばこの時、僕らの間に信頼が芽生えたと思う。そして、今大会に信頼という花が咲いた。そう桜のように…

大会前日は大雨が降り、大会が行われるかが心配であった。しかし、当日は天候にも恵まれ、絶好のスポーツ日和であった。

初戦、二回戦あたりは優勝を意識しすぎて緊張してしまっ、思うようなプレーを展開することができず接戦となったが、何とか勝利を収めることができた。

三回戦、四回戦は試合にも慣れてきて自分達の持ち味をいかしたスピーディーな展開で相手

を寄せ付けず一方的な展開に持ち込むことができ、快勝した。

そして、昨年敗れた準決勝まで来た。皆、昨年の敗北が脳裏をよぎり不安に陥っており、試合前は緊張の色を隠せなかった。一度、皆で円になって最終確認をし、薬指を高々と快晴の空に向かって指し「1・2・3・ウォー」というかけ声とともに試合に臨んだ。レギュラーは、試合には出ることのできないベンチプレーヤーやマネージャーの気持ちを背負いながら…。レギュラーは自分達だけが勝敗を背負っているという重荷がとれ、ほどよい緊張感を保ちながら試合を展開し、勝利を収めることができ、選手、マネージャー共に喜びを分かち合った。

しかし、最終目標は準決勝の勝利ではなく、決勝で勝つことである。遂に決勝まで来た。このときは、レギュラーもベンチプレーヤーもマネージャーも「優勝」しか考えていなかった

たせいか、皆は決勝という大舞台から来る緊張はなく、平常心で臨むことができた。決勝の相手チームは高校の頃全国大会にも出場経験のある者がいる強豪チームであった。選手達はこの強豪チームにも屈することなく、スピーディーなバスケットを展開し、さらにアウトサイドからのシュートも決まり、相手が強豪チームにもかかわらず、ダブルスコアで下すことができ、優勝することができた。レギュラーもベンチプレーヤーもマネージャーも1つになって喜びを分かち合った。

最後に今回僕達は最終目標としていた優勝をすることができた。しかし、今回はそれ以上に大きなものを得た気がする。それは、優勝という二文字よりはるかに大きな信頼という二文字である。全員が丸丸となって勝利へ向かって、互いに互いを信頼してプレーをすることができた。これは個人競技では得にくいもの



バスケットボールの部優勝チーム「SAKURA」

であり、バスケットを含む団体競技だからこそ得られるものであると思った。バスケットを長年やっていて本当に良かったと思う。そしてこのような素晴らしい機会を与えてくれた中央大学に感謝しなければならない。ありがとうございました。

ソフトボールの部 優勝チーム 「最高の仲間と最高の瞬間を」 P' Luck

商学部4年 吉利 亮平

私は今回の中央大学杯スポーツ大会に、所属するサークルで参加しました。私達オールラウンドサークル・P'Luck（プラック）は、ARAというオールラウンドサークルの連盟に所属しており、普段は空き時間を利用して球技全般を楽しみながら、時には真剣勝負というようにアットホームな雰囲気で活動しています。その他にも年三回の合宿と夏にはバーベキューやキャンプ、M-1グランプリやボリング大会の開催、他にも連盟の大会であるARA杯など色々な活動をしており、スポーツ大会もその一環として参加しています。今回のスポーツ大会もサークル員がサッカーやバレー、バスケットの種目ごとに分かれて出場し、私はその中のソフトボールの部に出場しました。

毎年行われる中央大学杯スポーツ大会は、単なるサークルの行事としてではなく、様々な単位で多くの人々が参加し、他

の団体との交流もできる数少ない機会として非常に楽しい行事です。私個人の話ではありますが、今年で4回目の出場で「必ず優勝して有終の美を飾ろう!」と意気込む反面、1年生の時からスポーツ大会を思い出すと「スポーツ大会に出るのももうこれで最後のだな」と淋しい気持ちも少しだけありました。また今回は



ソフトボールの部優勝チーム「P' Luck」

4年生ということもあり去年まで先輩に頼っていた部分も、今回はそういった場面で頼られる立場として行動しなければいけないので難しく、とても苦勞しました。さらに昨年の順位は先輩方との最後の大会で優勝という最高の結果だったことで、今年は二連覇のかかった大会となりプレッシャーが大きく、期待に応えることが出来るかどうか不安であるというのが本音でした。しかし、技術面での向上を図るために夏休みの期間を利用してみんなで集まって午前中から夕方まで練習、その後学校近くに住んでいるサークルの人の家2~3軒に宿泊し、また次の日も学校で練習を行いました。お互いの長所や短所、プレースタイルを理解した上で指摘し合い、意思疎通をして団結力を強めることで不安も気にならなくなり、気負うことなく試合に臨むことが出来ました。これらに加えて会長を

始めとした2年生の裏方で頑張りや選手以外のメンバーの応援が大きな支えとなり、優勝に結びついたのだと思います。

高校までの部活と異なり、強制的でないサークルでも全員が一つの事に向かって取り組み、こんなにもアツくなれるということを実感、経験できたことは私にとって大きな財産であり大切な思い出です。こんなすばらしい思い出ができたのもサークルのみんなの協力はもちろんの事、大会を円滑に進め運営して下さった学生課のみなさんを含め、スポーツ大会に携わった様々な方々のおかげであり、感謝の気持ちでいっぱいです。そしてサークルの後輩たちにも、ずっと下の代の入学してくるであろう新入生にも、私が経験したように、最高の仲間と素敵な思い出を残してもらえたらいいなと思います。4年間本当にありがとうございました。

2007夏季セミナー 感想文

中央大学学生部

学生部では、大学生活をより充実させるために、自分自身を見つめ直し（自己分析）、自分の可能性や限界など、自分がどこまで挑戦出来るのかを経験する機会（自分を知るきっかけ）を提供することを目的とし、9月19日、20日の1泊2日、高尾の森わくわくビレッジにて夏季セミナーを行い、25名の学生が参加しました。大型野外アスレチックコースを利用する「PAプログラム」を専門のインストラクターの指導の下実施し、各種課題に挑戦し「自己との対峙・葛藤」「自分自身に対する挑戦」などを体験しました。また、夜にはキャリア支援課員を招き、就職活動に向けた講義・グループワークなども実施しました。

総合政策学部2年 久保 しおり

今回の夏季セミナーは「自分らしさ発見セミナー」ということで、就職活動に参加する3年生向けのものだと私は思っていました。しかし、私自身は2年生で就職活動もまだ1年以上先、単純にパンフレットを見て、「アスレチックに行けるなんて楽しそうだし、知らない人と知り合えるいい機会かも…」と思い、参加しました。実際に参加してみた感想は「充実の2日間」と言い切れると思います。普段、できないような経験をすることができ、多くの仲間と出会うこともできました。

私は20年間生きてきて、20歳の自分なりに自分の長所や短所を理解していると思っていました。しかし、実際は知らない部分がかかなり多くあるということを知ることができました。セミナーの一環で、初めて出会った相手に自分とはどういう人間なのかということを書いてもらうという機会がありました。1日を共に過ごしただけの相手なので、私自身の印象は第一印象に近いものだと思います。私の中で、どのようなことが書かれるのかを、自分なりに想像していました。それは自分自身が感じている自分であり、全く主観的なも



高さ約10メートルのハイエレメントプログラムに挑戦!

のでもあります。しかし、実際にふたを開けてみると、私が考えていた自分自身の第一印象とは異なっていました。それはおそらく、他人が私を客観的に見ていたからだと思います。私は普段から客観的にものごとを捉えようと意識しているのですが、それでも自分自身のことは客観的に捉えきることが出来ていないということを知り、これからはどのようにして自分自身を含む多くの事柄を客観的に捉えていけばいいのかという新たな課題ができました。

また、アスレチックで行ったグループワークでは、グループの中に社会の縮図があり、その中で自分がどのような存在であるのかということを知ることができたと思います。1日目に見ず知らずの他人とグループになり、そして2日間ともにグループとして過ごすことにより、最初はグループでの共同作業もバラバラだったのに、次第にスムーズに行うことができるようになり、2日目には昨日まで知らなかった人に命綱を持ってもらい、自分の命を預けて、危険なことにも挑戦することができました。それは2日間という短い時間で見ず知らずの他人

を仲間として認識し、またその仲間を心から信頼することができた集大成だと思います。その中で、自分がグループという名のコミュニティが形成されていく過程を通し、どのような振る舞いや役割を果たすのかということを感じることができたと思います。また、普段の生活であまり意識することはないけれど、自分は本当に多くの人に支えられ生きているのだということも感じることもできました。

今回、夏季セミナーに参加したことで、普段の生活の中では気付くことができないこと、また当たり前だと思っていて見過ごしがちなことに、改めて気付けたことは、私にとって大きな収穫となったと思います。また、この感想を通じて改めて、今回夏季セミナーの運営に携わった方々にお礼を述べたいと思います。ありがとうございました。



下では、仲間が命綱をしっかりとって挑戦を支えます。

(注) 今回の夏季セミナーにおいては、複数のインストラクターが参加者及びグループのメンバーが最大限の力を発揮できるよう見守り続け、同時に安全確保に万全を尽くしています。